

奥州市災害廃棄物処理計画

平成31年2月
奥州市

目次

【 総 則 】

- I 計画策定の背景及び目的
- II 計画対象区域
- III 計画の位置付け

1. 想定災害の設定	1
1-1 検討対象とする災害の基本パターンとその考え方	1
1-2 広域災害のケースの想定災害の設定	2
1-3 局所災害のケースの想定災害の設定	6
2. 想定災害・被害想定	9
2-1 可燃物、不燃物、金属類、コンクリートがら、柱角材.....	9
2-2 廃家電類	15
2-3 避難所から排出される生活ごみ	18
2-4 し尿収集必要量.....	20
2-5 仮設トイレの必要基数	22
2-6 仮置場の必要面積.....	24
【参考】平成 29 年度盛岡広域 8 市町における試算方法による推計	26
3. 災害廃棄物処理フローの検討	29
3-1 検討手順	29
3-2 検討条件の整理.....	30
3-3 市内廃棄物処理施設の処理余力	34
3-4 処理フローの構築	36
4. 処理困難物への対応	46
4-1 処理困難物の種類等	46
4-2 片付けごみへの対応方針.....	55
5. 思い出の品への対応	56
5-1 回収の対象物および取扱いのながれ	56
5-2 対応事例の整理.....	57
6. 災害発生時の災害廃棄物処理に係る初動体制の計画	58
6-1 災害発生時の初動対応の考え方の整理.....	58
6-2 災害発生時の初動体制の計画.....	67
6-3 災害発生時の災害廃棄物処理に係る行動計画	76
6-4 災害発生時の災害廃棄物処理に係る行動マニュアル.....	101

総 則

I 計画策定の背景及び目的

平成23年に発生した東日本大震災は、地震、津波によって広範囲に甚大な被害をもたらし、また、昨今では想定をはるかに超える大雨による洪水、土砂災害が多くみられるようになった。これらの災害では膨大な量の災害廃棄物が発生し、その処理は困難を極めている。

そのような経験から、環境省は、災害時の廃棄物処理を迅速に進めていくことを目的として、平成26年3月に「災害廃棄物対策指針」を策定し、岩手県においては、平成28年3月に「岩手県災害廃棄物対応方針」を策定している。この方針では、東日本大震災の教訓を生かし、平時からの災害時の廃棄物処理対策を講じておくことが重要であるとしている。

当市においては、平成20年6月14日の岩手宮城内陸地震、平成23年3月11日の東日本大震災により発生した多種・多量の災害廃棄物の処理を経験しており、また、東日本大震災の際には、近隣自治体から災害廃棄物の受入処理を行っている。

今後発生する可能性がある大規模な地震や、大雨・洪水等の自然災害に備え、災害発生後の廃棄物処理対策の充実・強化を図ることが重要である。

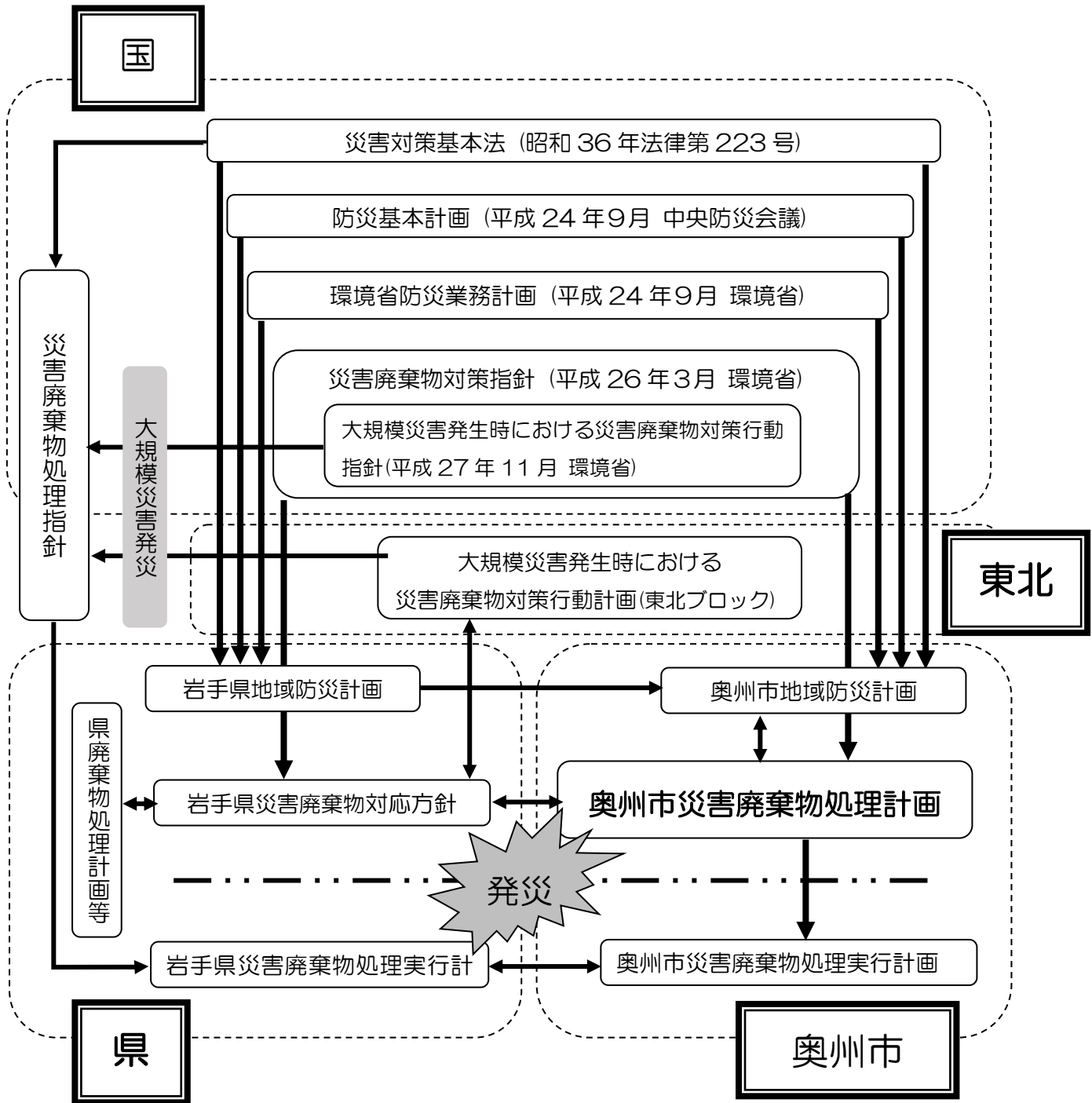
これらのことを踏まえ、災害時における初動や、組織体制、自治体・民間等との相互支援など、本市の災害廃棄物処理に関する基本的事項を定め、災害廃棄物を迅速かつ適切に処理することにより、災害時の環境衛生を確保し、災地域の早期の復旧・復興に資することを目的として、奥州市災害廃棄物処理計画（以下「本計画」という。）を策定する。

II 計画対象区域

本計画の計画対象区域は、市全域とする。

III 計画の位置付け

本計画は、「災害廃棄物対策指針」に基づき、「岩手県災害廃棄物対応方針」と連携を図りながら、「奥州市地域防災計画」及び「奥州市一般廃棄物処理基本計画」における災害廃棄物の処理に関する事項を補足する計画として位置付けるものである。



【岩手県災害廃棄物対応方針より】